

「世界劇場会議国際フォーラム2015 in 可児」



2月13日(金)・14日(土)にわたり小劇場において『世界劇場会議国際フォーラム2015in 可児』が開催されました。テーマは『社会包摂と劇場経営』。社会包摂(ほうせつ)とは地域の一人ひとりの人を社会の構成員として包み込むこと。対語は社会的排除。



社会的排除から連想される言葉は、差別、いじめ、孤立、格差、貧困、自殺、圧力、事件等、耳慣れない社会包摂という言葉に対してより多くの言葉を思い浮かべることが出来ます。私たちが今漠然と見ている社会は排除的に傾いた社会といえるのかも知れません。このような社会に対して劇場に課せ

られた役割は何なのかについて話し合う為に、遠く英国のパネリストの方々を初め全国から多くの方が参加してくださいました。2017年に創立20周年を迎えるという世田谷パブリックシアターゼネラルマネージャーの榎屋(かじや)氏により、その活動や事例の紹介、可児市文化創造センターからは坂崎氏が『まち元気プロジェクト』を初めとする数々のコミュニティプログラム、ワークショップや市民サポーターの活動等具体的でわかりやすい紹介がなされました。クルーズのメンバーにとっても改めてalaの活動の全容を知ることが出来、理解を深める良い機会になったのではないかと思います。英国のパネリスト、ジェームス・プリニング氏からはコミュニティとの関わりにおける芸術監督の役割として、ウエスト・ヨークシャー・プレイハウスについて、そのビジョンや



ミッション、マニフェストの紹介があり、ダン・ベイツ氏から英国のシェフィールド劇場の最高経営責任者として活動と地域への取り組み、なかでもシェフィールドのオーディションで選ばれた120名の劇団員からなる市民劇場企画の紹介など、劇場のプログラムに参加して人生を変えた人の紹介等、劇場の力で人々の生活を変えられることを伝えるものでした。参加された方に感想を伺いました。建築を学んでいるという女子大生は「将来は劇場などの建築に関わって行きたい。今日の話聞いて、人の姿が見えない建築物ではなく、人の流れが出来るような建築物を作りたい」と抱負を語ってくれました。

東京、新宿文化センターから来て下さった二人の方は「劇場における芸術と福祉の車の両輪という話を聞いて、私達には片輪だけの意識しかなかった、片輪だけでクルクル回っている感じ。おいてきぼりにならないようにはまずみんなと話し合い、意識改革から始めなくてはいけない」と話して下さいました。休憩の時間には参加者同士の名刺交換もなされて、人の輪が広がっている様子も感じ取ることができました。北アルプスの峰々を背に3つの大河に抱かれ、大阪・東京の真ん中にあるこの地域が今ここに劇場の懸け橋になっているように思いました。将来、文化の発信地になっているような夢が湧いてきて、そのお手伝いができたalaクルーズを誇りに思いました。社会包摂…市民目線でいえば、alaに行って公演や展示を観て、講演を聴いて、ワークショップに参加して自分の考え方や生き方が変わった。わが町にCalaという劇場があって楽しみが増えた、元気が出た、救われたと思えるような、衛館長のいわれる『人間の家』の『プラットホーム』にひとりでも多くの人に参加できるようなそんな劇場になれば良いなと思うのでした。

世界劇場会議国際フォーラム2015 in 可児

NPO法人 alaクルーズ 澤野親司

この度の世界劇場会議国際フォーラムは、初めてアールで開催される運びとなり、全国各地より多くの皆さんにおいていただき、お会いできる楽しみもありました。又、無事に終えアールの好印象を持って、お帰りいただくことを願う思いでした。私は、二日目のセッションでパネラーの一人として、「劇場のある町に生きる」をテーマに一市民の立場で、アールが開館し市民にとってどのような存在なのかなどについて発表したのですが、限られた時間で思うようにまとまらず、納得できる内容でなかった気がします。この世界劇場会議を、alaクルーズの今年度事業の一つに位置付けていましたが、クルーズからの参加者も多く、当日の受付や会場案内などでは、日頃の活動の成果が充分発揮され、来館された皆さんは満足されている様子でした。また、このようなフォーラムに参加する機会が殆どないなか、その雰囲気や体験できたこと、そして、アールが劇場としてどれだけ注目されているかなど、基調講演やフォーラムを通じ、直接触れることができた貴重な経験になったと思います。基調講演で、たまたま隣に座られた方と、休憩時間にお話している間に、私がalaクルーズの者であることに気づかれ、「実は、お世話になっている方から“可児で行われる世界劇場会議に行かれるなら、是非、alaクルーズの人に会って話を聞かれると良いですよ”とアドバイスされ、楽しみにして来ました」と言われました。さいたま市からいらっしゃる財団の方で、ボランティアを採用して5年、いろいろ悩んでいらっしゃいました。夜のレセプションで、お会いしクルーズの状況や活動などについてお話したところ、「ボランティアで、そこまでやられるのですか」と、大変驚いてみえました。フォーラムも終わりお帰りの際、わざわざ挨拶に来られアールを後にされました。この先、クルーズの事が何か一つでもヒントになればと思っています。この二日間を通じて、アールが劇場の先駆的な存在である事を実感すると共に、そこで活動している充実感と満足感を、改めて認識する良い機会でした。



世界劇場会議国際フォーラム2015in 可児

に参加して

“世界劇場会議って何？” “何をする会議？” 漠然としてなかなか理解できないまま、私はドキドキしながら、そして少しワクワクしながら当日を迎えました。朝礼後、一日目のポジション移動シートに沿って行動開始。まず私の役割は、小劇場ホワイエで参加者の翌日の昼食（お弁当）の受付。申込み殺到と意気込みでしたが、思ったより少ないようでした。次に小劇場での、特別講演・基調講演に続いてsession1-1の場内監視ポジションです。通常のアールの公演と違って、場内の方々は同時通訳のイヤホンを耳にし

ながら、スマートフォンやデジカメ・タブレットそしてパソコンとあらゆる手段を使って、会議の様子を取り込みながら参加されていました。初めて目にする光景に、これが「世界フォーラム」だと目と耳で感じ気持ちが高揚してくるのを実感しました。小劇場でのフォーラム終了後、アールのバックステージツアーです。参加者は予め決められたグループに分散。私は財団の坂崎係長率いるBグループの後尾に付いてご案内しました。時間の制約もあり参加者はグループから、はぐれないように足早に移動しながらも、カメラに収めたり、質問をしながらのバックツアーとなりました。その後レセプション会場で、歓談しながら美味しい食事を頂きました。二日目、小劇場の開場準備。そしてsession1-2「地域に生きる劇場とは②」に参加（参加時は制服のスカーフを外します）その後、財団事務所に移動。各場所にお弁当を配布して、早めの昼食・休憩を挟んで、再び小劇場へ。午後より昨日に続いて場内監視後、session3「劇場のある町に生きる」に参加しました。澤野理事長をはじめ、過去に研修先として訪問した3ヶ所の劇場の方々もパネラーとして参加されていたので、ボランティアとして興味深く話を聴きました。緊張しながらも、無事二日間終了しました。アールでフロントスタッフとして活動出来るのも、アールの劇場経営に携わる皆様の日々の経営努力によるものだと、はじめて認識致しました。そして今まで目に見えなかった「劇場が社会に果たす役割」「アールが可児市民にとって、如何に重要な劇場」であることが僅かですが理解でき、世界劇場会議に参加した意義を感じました。（A）



世界劇場会議国際フォーラム2015in 可児

に参加して

昨年度初め、館長より「世界劇場会議をこのアワードで開催するので、alaクルーズも参加して頂きたい」というお話を頂きました。劇場会議とは？どの様な関わり方をするのだろうか？とっていました。劇場会議では「小劇場」で講演や、セッションが開催されます。クルーズとして、何をお手伝いするかを、財団と打ち合わせすることとなりました。小劇場フロント業務、弁当受付の手伝い、レセプションのクローク受付、バックステージツアーの手伝い、昼食用弁当の配布など、財団と協力して行うこととなりました。理事長は、「劇場のある町に生きる」というsessionでパネラーを務めます。私たちは、円滑に行動できるために、各日、タイムスケジュールに沿ってポジション移動シートを作成し、誰がこの時間帯に何をするか。どの様に動くかを朝礼で確認しあいました。両日とも、空いている時間帯は、各々講演やsessionに参加しました。お客様からは「姿勢が良い」「にこやかな対応が良い」「朝礼での連絡等がすばらしい」とお誉めのお言葉を頂きました。今回イギリスや韓国、全国の方々にお越しいただきましたが、クルーズとして、最高のホスピタリティを発揮できたのではないかと思います。アワードが各方面で注目を集める中、私たちalaクルーズも全国の方々に、「素晴らしい」と言われていくよう、今後も目指す方向を忘れず活動していきたいと思しました。(K)



世界劇場会議国際フォーラム2015in 可児

に参加して

フロント業務をしながらの参加となりました。全国から参加者が来られ、講演者は外国の方もいらっしゃるため、同時通訳のイヤホンもつけました。お弁当の受付や配布、小劇場及びレセプションのクロークなどいろいろやりました。場内では、劇場の社会的役割など、熱心に意見交換がされていました。クルーズの活動にもお誉めの言葉をいただきました。こんな大きなフォーラムをお手伝いすることができて、大変うれしく思いました。(M)



“手作りランプをつくろう！”

1月10日(土)、美術ロフトに於いて“手作りランプをつくろう！”が開催されました。午後2時から始まったワークショップは盛況で大勢の子どもたちとその家族の方が参加してくださいました。予約受付開始後一週間で募集人数に達したそうです。参加者の多くが可児市の広報や幼稚園に配布されたチラシを見てという人や、友達に誘われた人、「昨年作って楽しかったから」という人もいました。前列の机に並べられたおなじみのキャラクターのオラフやトトロなどのスタッフの力作を参考にしながら、制作が始まると皆さんはもう夢中で、仕上がるまでの2時間以上の長丁場にもかかわらず3~4歳の子どもたちまでもが音を上げることはありませんでした。出来上がった皆さんの作品に雪だるまが多かったのは白い粘土からのイメージでしょうか、アナと雪の女王のヒットのせい、それとも今年積雪が多かったせいでしょうか。自画像や25年ぶりに会うという学生時代の友達への誕生日プレゼントを作った人もいました。いよいよ点灯です。参加者の中からバースデーの2人の少女が選ばれて、カウンタダウンが行われ、午後6時、イルミネーションと共に70余のランプに明かりが灯されました。小雨が降り出した中、写真を取り合ったりして暫し灯りの世界に浸りました。今年

の材料は粘土の感触の良さもさることながら、水性のマジックペンで自由に彩色できるのが魅力だったようです。親子で一緒になってそして夢中になって物作りが出来たことは、作品が出来上がった以上に子どもたちの心に大きなプレゼントができたのではないかと思います。





26年度フロントスタッフ活動

★財団主催事業のフロントスタッフ活動・・・【協力事業】

- 5月10日(土) 東日本復興支援 祈りのコンサート
- 5月11日(日) 音楽の絵本
- 5月16日(金) 17日(土) 劇団ヴォードヴィルショー 「その場しのぎの男たち」
- 6月13日(金) ムッシュかまやつ×泉谷しげる トーク&ライブ
- 6月22日(日) ハーディング&新日本フィルハーモニー サマーコンサート2014
- 7月 6日(日) 可児市音楽祭2014
- 7月26日(土) ウィーンVルジェリウスピアノ三重奏団
- 8月 1日(金) 音楽家の集いvol.43 ヴァイオリンコンチェルトの魅力
- 8月23日(金) かに寄席 納涼
- 8月30日(土) 多文化共生事業
- 9月 6日(土) AG Town vol.26 MYLIFE IS MY MESSAGE in可児
- 9月14日(日) スーパーチェロ・アンサンブル・トウキョウ
- 9月20日(土) 森山ジャズナイト2014
- 10月 4日(土) 5日(日) シリーズ恋文 vol.5
- 11月 9日(日) 上原彩子ピアノ・リサイタル
- 11月20日(木～24日(月) ala Collection シリーズvol.7 「黄昏にロマンス」
- 12月 7日(水) 風間杜夫落語独演会
- 12月13日(土) 中西圭三 ネオクラシックコンサート2014
- 1月 7日(水) ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団 ニューイヤー・コンサート2015
- 1月18日(日) かに寄席 初席
- 1月21日(水) 樫本大進&エリック・ル・サージュ
- 2月21日(土) アーラ・常磐津教室 おさらい会
- 2月27日(金) 28日(土) 文学座「女の一生」
- 3月 7日(土) 8日(日) 市民ミュージカル2015 「君といた夏」
- 3月13日(金) 不思議の国のアリスのクラシックコンサート 5つの魔法の声 計33公演

★市民事業フロントスタッフ活動・・・【自主事業】

- 4月20日(日) 可児交響楽団 春の特別演奏会
- 6月 1日(日) バレエスタジオ スワン 大4回発表会2014
- 6月14日(土) 紅馬音楽団 LIVE 2014
- 7月13日(日) 合唱団“猿” 夏のコンサート
- 10月26日(日) 可児交響楽団 第9回定期演奏会
- 11月16日(日) コーラスダイアリー2014
- 11月30日(日) コーロ・ヴィヴァーチェ第8回地域交流演奏会
- 12月20日(土) 東日本復興支援チャリティーコンサート
- 12月21日(日) 可児第九合唱団 クリスマスコンサート2014
- 12月23日(火) アンサンブル・リベルタ 和太鼓 TOKARAジョイントコンサート
- 2月 8日(日) 武田邦彦講演会
- 3月29日(日) L' espor de ballet 第4回発表会 計12公演

編集後記

ずいぶん暖かくなって来て、土手に咲く小さな花や動き出す虫に春を感じています。からだ全体が、あれこれやりたいと芽吹き始めています。毎年、桜が咲く季節を迎えると「日本って美しいなあ」と感じる中、昔から伝わる行事や節目の習わしを大切に、次世代に受け継いでいけたらと思うこの頃です(H)

平成27年度通常総会
のお知らせ
平成27年5月31日(日)
午前11時より
ワークショップルーム
(洋室)

alaクルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414
http://www.kpac.or.jp/ala-crews/
Mail : ala-crews@kpac.or.jp